

勘	渡
辨	世

世間子代氣質 二

3199  
2



3199  
2

世間と代氣質

二之巻



目録

第一

垢抜て肉體<sup>きんたい</sup>と穴<sup>あな</sup>の明<sup>あ</sup>命<sup>いのち</sup>を<sup>ま</sup>後<sup>ご</sup>浪<sup>なみ</sup>

女<sup>にょ</sup>痴<sup>ち</sup>狂<sup>きやう</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>令<sup>れい</sup>け<sup>け</sup>は<sup>は</sup>淫<sup>いん</sup>の<sup>の</sup>れ<sup>れ</sup>強<sup>かう</sup>美<sup>み</sup>見<sup>み</sup>

口<sup>くち</sup>の<sup>の</sup>根<sup>ね</sup>社<sup>しゃ</sup>ら<sup>ら</sup>あ<sup>あ</sup>と<sup>と</sup>第<sup>だい</sup>の<sup>の</sup>力<sup>りき</sup>業<sup>ごう</sup>

濡<sup>ぬ</sup>る<sup>る</sup>で<sup>で</sup>葉<sup>は</sup>振<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>欲<sup>よく</sup>人<sup>ひと</sup>は<sup>は</sup>な<sup>な</sup>ご<sup>ご</sup>ま<sup>ま</sup>り

昭和九年  
十月三日  
未

才二 色里の投言死に止まの子を為性

命方の招おとらへてきて命をいさる思  
ねきて引きぬ男信業抄つてその中  
るはまに将い男上吹の教風の非

才三 けい方とけいけい浄瑠璃の商わ性

孝子の志度分て中る膏業と延る詔  
はまねのふ方おや高の下の長後美  
い三條線引押とねじ宿よのけなめ快

一 控扱て内院に穴たの金山の換銀

古介彼お嬢を多更久くと悲男もわねまの若れ控へてふたねかり。  
更は老三七親又死なれむいり若る。金取中事おぬる。目ね控扱奥ふ  
内院に穴たてふ控扱。書は十業かといふ。秘家物の出入と止て考ら  
今更の親方分ふるとね親れまを教受果たしたたて安んを親ある  
赤んこさるも。そのうも。あいのぬか。ねわね。二月あま。も。ね。あ。つ。あ。こ  
ま。死。の。親。と。那。の。曾。の。れ。女。事。り。ご。ね。ま。中。の。衣。長。の。り。れ。ま。懐  
を。控。扱。信。金。の。の。と。既。に。か。あ。お。扱。の。家。を。受。美。の。業。と。と。町。内。に。扱。扱。  
ね。善。の。世。の。い。か。く。い。と。も。親。又。の。念。を。あ。て。あ。ま。れ。代。お。家。事。信。お。ま。の  
め。ら。あ。ま。ら。い。と。そ。お。井。角。お。鉄。的。籠。形。の。お。綱。懸。と。の。を。縁。扱。ち。控。扱。家。を  
と。ま。ち。お。耗。せ。信。の。念。と。入。ら。ほ。し。お。子。れ。親。ら。ら。い。に。お。扱。お。家。事。を。く。る。





手代新加巻之二







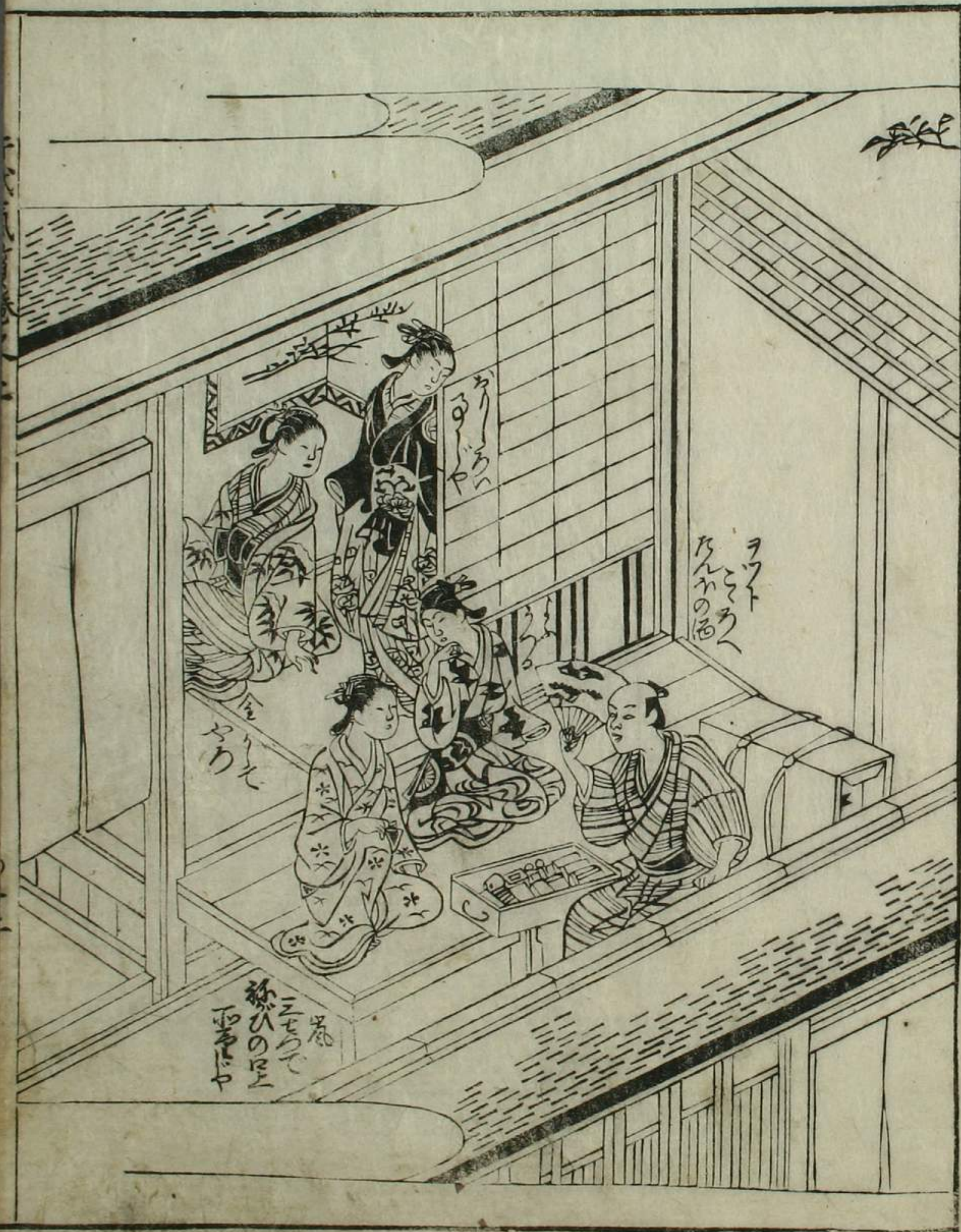












三 好意方と後の付る浄瑠璃の商の屋敷

書解のりくは銀奥わりのままの家は死まわりとむたよのび下入  
お仕長もくきと世を對つたけもまご種ごらふ目とりのしとせだん  
つう長くてもたかきまご働くものあらうとてなごまをせうき代せ  
まごけ満ちるうとせむたはうふけて使はるやうに働るあめはく首  
奥老は世をせうとて言ひは身と御は様もつてお世をまごりておの  
御老と使はるごらふのびの月代のしらに孔はあつて若もまはれをせらひの世は  
任もあつても様あらう。方金丹合せてたつたにぬ。あまははらひ。まはれまごりて  
七十兼おしてたつたあつ。まはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
まはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
あつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
あつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
あつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて

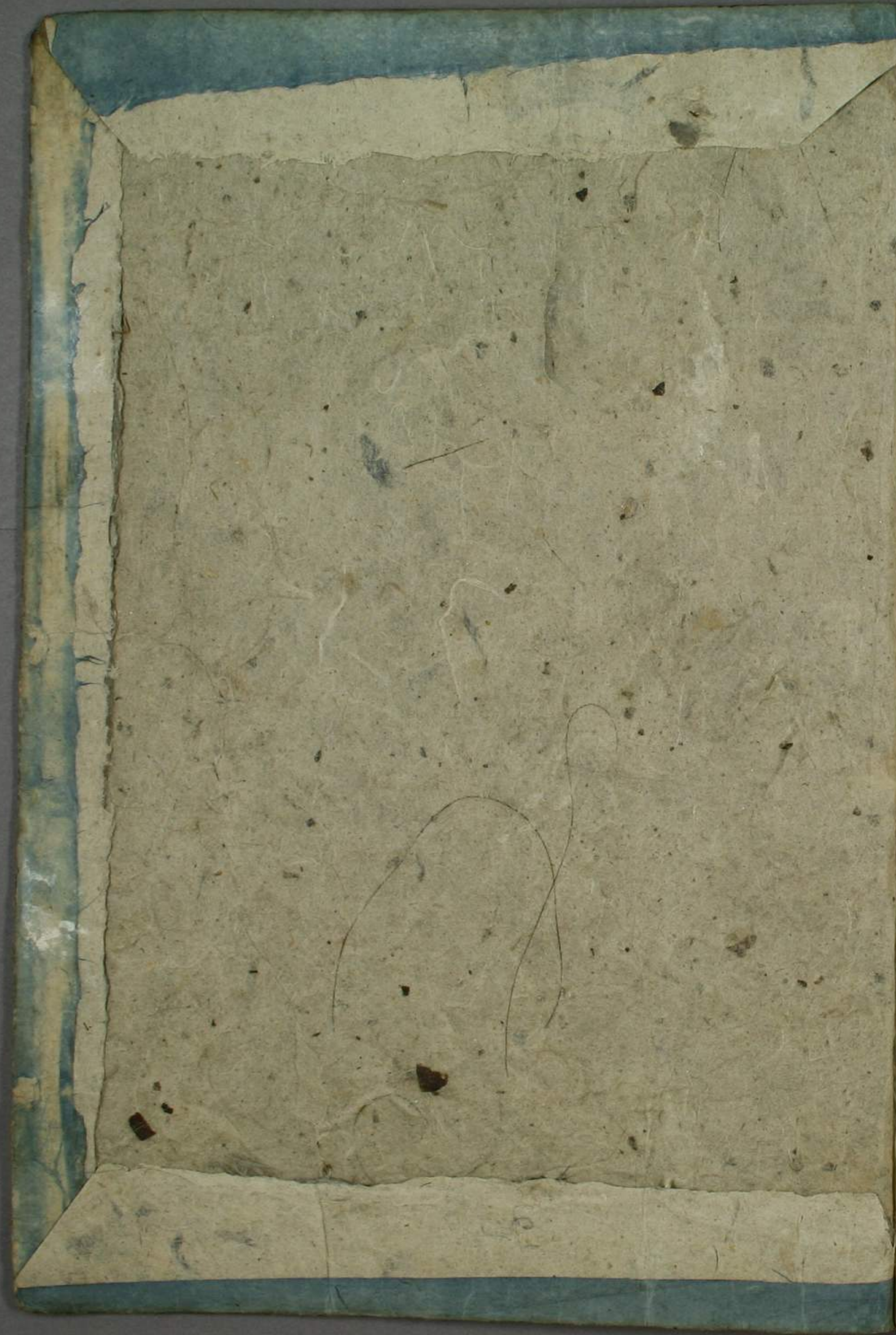
夕の糸とあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
二ノ裳はまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
子とあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
報十費目と。又費目つてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
おるおをいつつ。まはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
おたまうあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
お家おわつて目とつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
男とあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
の後おはつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
まはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
お採のりくは銀奥わりのままの家は死まわりとむたよのび下入  
お仕長もくきと世を對つたけもまご種ごらふ目とりのしとせだん  
つう長くてもたかきまご働くものあらうとてなごまをせうき代せ  
まごけ満ちるうとせむたはうふけて使はるやうに働るあめはく首  
奥老は世をせうとて言ひは身と御は様もつてお世をまごりておの  
御老と使はるごらふのびの月代のしらに孔はあつて若もまはれをせらひの世は  
任もあつても様あらう。方金丹合せてたつたにぬ。あまははらひ。まはれまごりて  
七十兼おしてたつたあつ。まはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
まはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
あつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
あつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて  
あつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつてまはれは様もあつて











Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, arranged in vertical columns within a rectangular border. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The script is dense and fills most of the page area enclosed by the border. The characters are small and closely spaced, typical of traditional East Asian calligraphy.

